三条市租税教育推進協議会長賞

私が知った税金について

新潟県立三条商業高等学校　三年　志田（しだ）　依美果（えみか）

私は税金についてあまりくわしく知りませんでした。しかし、この税の作文でさまざまな税金の種類があることが分かりました。

その多くの種類がある中で私が注目したのは「地方交付税交付金」です。これは、私たちの日常生活と深く結びついています。教育や警察、そして消防など公共サービスを行うためにあるのが「地方税」です。ですが、地域の経済状況などによって生じる財政力の違いがあります。そこで財政力の差を調整するために支出しているのが、地方交付税交付金ということを知りました。私が想像していたよりも支出額は多く、約十六兆四千億にまで達していました。ここで思ったのは、地域の財政力の差はとても大きいということ、そしてもう一つはもし地方交付税交付金がなかったとしてらどのような状況に陥ってしまうのか、ということです。

先程、教育や警察、そして消防などは税金を徴収して行っていると書きました。更にその税金だけでは十分なサービスを提供することはできません。そのような中で地方交付税交付金がもしなくなってしまうとしたらどうなるかを考えてみました。

まず最初に考えたのは、消防についてです。最近では救急車が通っているのをよく見かけるのはもちろん、テレビを見ていても火災がよく起きているように感じます。今は通報をすればすぐ対応してくれますが、もし有料であるとしたら多くの人が救われず、被害が拡大する可能性があるのではないかと考えました。その他にも環境整備が行われなくなり道が汚くなるなど、生活する上でとても快適とは言えません。

私たちは、なぜ税金をこんなにも多く払わなければならないのかと不思議に思うことも少なくはありません。このように税について考える機会がなければ、私は今、税金を払うことがどれほど大切で欠かせないものかを理解できていなかったと思います。今回注目した地方交付税交付金は国が支出してくれているものですが、いずれも私たちの生活を支えてくれているものに変わりはありません。調べて学んだことを忘れずに、更に理解を深めていきたいです。